

令和元年度（2019年度） 第1回熊本博物館協議会議事録

2019年10月11日（金）14：00～16：15

於：熊本博物館講堂

出席者

【委員】阿部委員（会長）、岩崎委員（副会長）、紫垣委員、島津委員、
木川委員、富田委員、日高委員、宮本委員、福本委員、園田委員、
梶尾委員

【市】遠藤教育長、植木館長ほか博物館職員

〈次 第〉

○開会

○委嘱状交付

○教育長挨拶

○委員紹介及び自己紹介、職員紹介

○会長、副会長選出

○会長挨拶

○議事

（1）平成30年度 第2回博物館協議会意見に対する対応について

（2）平成30年度 運営点検評価について

○その他

・令和元年度 事業の実施状況報告

○閉会（閉会后、秋季特別展覧会案内）

《議事内容》

1 開会

2 委嘱状交付 教育長より委員代表として阿部委員へ交付

3 教育長挨拶

4 委員紹介及び自己紹介、職員紹介

5 会長、副会長選出

会長に阿部委員、副会長に岩崎委員を選任

6 会長挨拶 (新会長挨拶後、教育長は公務のため退席)

7 議事

【議事 1 平成30年度 第2回博物館協議会意見に対する対応について】

会 長：それでは、会の進行を務めさせていただきます。委員の皆様より建設的なご意見をいただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。会議次第に従いまして、平成30年度 第2回博物館協議会意見に対する対応について、説明をお願いします。

館 長：協議会資料をもとに、平成30年度 第2回博物館協議会意見に対する対応について説明いたします。

[第2回博物館協議会意見に対する対応について説明]

会 長：前回の協議会意見への対応について、ただ今ご説明をいただきました。ご意見・ご質問等おありでしたら出していただきたいと思えます。それではお願いいたします。

委 員：⑧番の「働く世代が参加しやすい時間帯」にプラネタリウムや、実際に星空を見るような企画なども検討してほしいという意見があったわけですが、旧細川刑部邸のライトアップに合わせて夜間開館するというのはイベントとしては大変結構かと思いますが、「星を見る」という観点からすると、ちょっといかがなものかという気がします。何か具体的な企画などがあれば教えていただきたいと思えます。

館 長：実際に博物館で、夜間に星を見るという企画は、現在のところやっております。以前、試みたことがあるのは、今年1月の部分日食のときに、日曜日でしたので一度やってみようということでしたが、あいにく雲がかかって見えにくかったということです。

委員：夜間にやれなかったというのは、アクセスの問題とか、安全上の問題とかがあったからでしょうか。

館長：やはり、安全上の問題とか設備の問題等もございますので現時点では実施しておりませんが、将来的には検討しなければならないことかと考えております。

事務局：博物館で夜間に星を見るような天体観測会というのは、閉館時間の問題ですとか、しろめぐりんなどの交通機関が夜間には使えなくなってしまうとか、またライトアップの時期には星が見えにくくなって実施がし難いという問題もあります。そこで、代わりと言ってはなんですが、水前寺江津湖公園で、「わくわくえづっ子塾」という取組に参加させていただき、「博物館職員と天体観測をする」という企画を行っています。その公園は防犯面や環境面でも天体観測に適していますので、今はそちらの方で活動をさせていただいているところです。

会長：よろしいでしょうか。安全確保等に努めながら今後も実施していくということですが、博物館での実施はこれからの検討課題かなと思います。まだ、12月のリニューアルオープンから半年ほどの取組ですので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。
他にはありませんか。

委員：◎番ですが、熊本地震に関する展示というのは常設展示で是非とも必要だと思います。例えば、兵庫県南部地震記念館はありますが、熊本地震の記念館や関連する展示はほとんどありませんので、是非ともこの博物館での展示をと思っています。先ほどの説明でDVDがあるとおっしゃったのですが、こういったものでしょうか。私は知らないのですが教えてください。

館長：小学校高学年を対象として、リニューアルオープン記念展のときに「熊本地震」に関するコーナーを設けました。その際に制作し、毎日放映していたものです。断層型地震の原理、それによってどのような被害が発生したのかなどを子どもたちに分かりやすく伝え、学習してもらう内容です。学校からの要望があればお貸しすることも

できますし、実際に県立美術館さんが地震に関する展示をされたときにはお貸ししていますし、御船町恐竜博物館での(故)田中憲一さんの絵画修復展示会・修復報告会の際にも、地震の原理や被害状況について知るよいDVDということでお貸ししたところです。

委員：中学校でも地震の勉強はするのですが、熊本地震のメカニズムみたいなもの、どういう仕組みで起こったのかといったことについて、中学校の理科の先生はあまり知識をもっていません。今度、中学校理科の九州大会で、九州大学の島原にある観測所・所長の清水先生にご講演をいただきます。そこで我々もしっかりと知るようになると思うのですが、中学校の理科の教員が授業や研究発表会で熊本地震に触れないわけにはいきません。そういう意味で、防災という視点と地学教育という視点で、大事な位置付けになるかなと思います。

館長：熊本地震につきましては2階の常設展示室でパネルを展示しており、決して展示物が無いわけではございません。当館学芸員も、機会あるごとに断層剥ぎ取り調査を行っており、その標本もございません。活用もしており、リニューアルオープン記念展のときには、その標本の展示も行いました。過去の地震に関する展示も行っております。今のご意見は、常設でもっと内容の充実をしたらどうか、ということだと思しますので今後検討させていただきます。

事務局：補足をさせていただきます。今、ご指摘のあったとおり、熊本地震に関する展示は必ず必要だということで、熊本地震が発生する前には既に常設展示室での展示内容が決まっていたのですが、急遽一部、展示内容を熊本地震に変更してパネル展示をさせていただきました。前回の協議会で、記載内容が初歩的なものに限られているのではないかというご指摘もありましたが、論文等の情報は日進月歩で増え、更新されていくものですので、常設展示の中で触れられるもの、作り置きできるものは限られるのかも知れないと考えています。また、その他の収蔵資料も多く、館内では実物展示を中心に行っていますので、パネル展示の割合は少なくなってしまう。それを補う意味でも、特別展や節目の年の企画展等で、県内の様々な剥ぎ取り標本などの実物を集めて地震のメカニズムなどを説明するような展示会を行っていきたいと考えています。

会 長：よろしいでしょうか。せっかくのご意見ですので十分に話し合っ
いただき、今後の課題にさせていただければと思います。ありがとう
ございます。ほかにございますか。よろしいでしょうか。
それでは次の、二つ目の議事に移りたいと思います。平成30年度
の運営点検評価について、事務局よりご説明をお願いしたいと思
います。

【議事2 平成30年度 運営点検評価について】

館 長：資料の9ページ（詳細は11ページ）から説明になります。
[点検評価の概要、運営状況の概要について説明]

館 長：説明が長くなりましたので、平成30年度 運営点検評価につつま
しては、まずは協議会資料16ページ「熊本博物館の施策体系図」
における大項目Ⅰの「学芸活動」のところまで、まずは説明させて
いただいてよろしいでしょうか。

会 長：説明が長いようですので、まずは学芸活動までの説明をお願いしま
す。

館 長：なるだけ簡潔に説明させていただきたいと思います。
[協議会資料及び館報をもとに、大項目「Ⅰ 学芸活動」の点検評
価についての説明]

会 長：ありがとうございました。初めての委員さんもいらっしゃいます
が、お手元に「リニューアル後の運営方針」という冊子がございま
す。点検項目が箇条書きになっていますが、今、ご説明いただきま
したように、12月にオープンしてから3月まで、4カ月間の点検
評価ということになります。短い期間に館として対応された事柄に
ついて、リニューアル後の大変お忙しい中に報告書をまとめていた
だきました。

運営方針に掲げられた各項目に対する4カ月間のトータルの説明と
捉えていただきたいと思います。今、ご説明いただいた部分は「学
芸活動」の部分、その前の「点検評価及び、実施の運営状況につい
て」の概要部分となります。

前回の協議会で、各委員の皆さんからご質問・ご意見をいただいた

ことに関する対応につきましては、議事1で館長からご説明いただきましたが、これらの報告は非常に関連しておりますので、その意味で、先にお聞きいただいた方がよいということで説明していただきました。それらを踏まえて先に進めます。皆様からご意見・ご質問等をいただければと思います。

委員：今日ご提示をいただいた「平成30年度運営点検評価報告」は、平成30年12月から翌年3月までの自己点検に相当します。博物館が第三者評価を実施する際に、当該館の博物館協議会を活用するのはよいのですが、今回の協議会は今期第1回目の協議会であり、新任の方もいらっしゃいます。そうした新任の委員に第三者評価の責を担ってもらうのはいかがなものか。協議会に第三者評価を委ねるのであれば、昨年度の活動を熟知している前期協議会が担当すべきあり、前期協議会に提出すべきではなかったのでしょうか。リニューアル開館直後で事務が山積し、間に合わなかった点は考慮しますが、今後も協議会が第三者評価の一端を担うのであれば、先ほど申し上げたように、該当期の協議会へ提出していただきたいと思えます。

委員：また、「第52回肥後しゃくやく展」及び「第58回肥後朝顔秋の展覧会」が展示活動として入っています。以前はこの両者を熊本博物館で開催していましたが、国宝・重要文化財を展示するにふさわしい「公開承認施設」を目指す上で、有害生物等による収蔵・展示資料への影響が予想されるため、これらの展覧会開催がとりやめとなっています。それを受けて、肥後しゃくやく展は塚原歴史民俗資料館で、肥後朝顔展は動植物園での開催となっています。これは熊本博物館主催の展覧会なのですか。

館長：共催になっています。

委員：共催であっても、これらを他の展覧会活動と横並びにするのは、少し無理があるのではないのでしょうか。活動実績として取り込むのであれば、市民参画・協働事業の一つとして、あるいは他の博物館等との連携強化活動の項目へ移したほうがよいのではないですか。市民参画・協働及び他の博物館等との連携強化は、開かれた博物館にとって非常に重要な活動と認識されていることから、一考をお願いします。

いしたい。それから、プラネタリウムは施策体系図でいくと、中項目「展示活動」、その下位項目の中の小項目として「プラネタリウムの管理・運営」と位置付けていますが、プラネタリウムは中項目へ移した方がよいのではないのでしょうか。プラネタリウムを併設する博物館は全国的にもそれほど多くなく、熊本博物館にとってもプラネタリウムは重要かつ非常に大きな活動と位置付けられると思います。したがって、中項目「展示活動」、小項目「プラネタリウムの管理・運営」ではなく、プラネタリウムを「展示活動」から切り離し、独立した中項目とするのが適切だと思います。プラネタリウムの投映を展示と考える向きもあるかもしれませんが、博物館にとって非常に大きな活動であり、利用料金も別個に徴収している点からも、独立させたほうがよいと思います。それから、今日の議事次第を見ると、閉会が15時半となっていますが、残り15分です。まだ「学芸活動」についてしか事務局からの説明が終わっておらず、この資料を今日席上に出されて評価してくれと言われるのは、時間的にも無理ではないのでしょうか。

会 長：基本的にはご意見をいただくという形だと思いますが、事務局に説明をお願いします。

事務局：ご指摘大変ありがとうございます。ただ、本日はこれだけのメンバーを揃えておりまして、中身についての課題とか、検討とか、ご意見をいただきたいと思いますので、残り、ご指摘いただいたとおり、少ない時間でございますので、そのことはまた、私たちの課題とさせていただきますので、せっかくのお集まりでありますので中身についてのご検討をしていただけたら幸いに存じます。申し訳ございません。

館 長：（館長挙手）

会 長：館長をお願いします。

館 長：ご指摘のとおり、運営評価は基本的には、改選前にやるべきだったと私も思っております。協議会の開催が遅くなりましたことにつきましてお許しいただきたいと思います。次回からはしっかりと考えて参ります。プラネタリウムの件とかにつきましても、施策体系図

での位置付けを昨年度策定のリニューアル後の熊本博物館運営方針に基づいて組み立てたところでした。それで、今回はこういう形にしたものですが、今のようなお指摘もいただければ新たな体系を作り上げて、評価していただけるような形にしたいと思います。

委員：プラネの位置付けについては、専門家のご意見があればよいかと思いますが。

委員：では、一言だけいいですか。プラネタリウムだけの単館であっても、博物館として位置付けてもよいのではという議論が主流になっているかと思いますが。その場合は、展示が何にあたるかということ、もちろんこれは投映になるということです。では、実物資料はどうなっているかという話になるのですが、デジタル資料であっても資料として扱うことはそれほどおかしなことでもないということで、「展示活動」の中にあってもよいのかなと思います。これは、調査・研究とか、収集・保存、展示、教育・普及といった博物館としての基本的な機能の中に、どう入れ込むかということで苦労された結果かなと思っています。プラネタリウムに関しては、展示活動内での位置付けもそれほどおかしなことではないと思いました。

委員：おっしゃられる通りですが、熊本博物館は実物資料を中心に展示した博物館であるのと同時に、もう一つの側面としてプラネタリウムがある博物館という考え方があってもよいのではと思います。

会長：ちょっといいですか。一応、この「リニューアルオープン後の運営方針（冊子）」で、その項目の中に『プラネタリウムの施設管理と運営及び新たな番組開発』というのがあるのですが、基本的には4カ月間のまとめということで、今回のような項目立てになったということをご理解いただけたらと思っております。

委員：今のことに関連いたしますと、九州国立博物館では委員会を分けておきまして、活動の概略に関して有識者の先生方のご意見をいただく評議委員会というものと、もっと細かい内容まで扱う自己点検評価を行う別の委員会がございます。後者は内容がより細かいので、冊子を事前に委員にお送りして予め読んでいただき、委員会のごときにご意見をいただくという形です。今回の会ではそれが一緒になっ

ているので、非常に時間的に厳しくなっているのではないかと私は理解しております。ですので、今後は事前に資料をお送りいただいて、それに関して何か意見があれば当日、というような形でやっていただくと、多分時間的には非常にすっきりするのではないかと思います。

委員：最終的には熊本市のホームページに第三者評価として掲載されるのですか。

館長：今回、「評価」をどういった形であればよいのかということで、この運営方針に基づきまして行いました。どういった形が議論につながり、意見をいただきやすくなるのか、ふさわしいのか、迷いながら作らせていただきましたので、今回はこういった形でまとめさせていただきましたけれども、次回はそういった意見もいただきましたので評価をどうしていけばいいのか、ということを考えさせていただければと思います。今回につきましては、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

委員：一つ質問ですけど、これは博物館側が行った評価をお知らせいただいているのでしょうか。こういったことを実施したので協議会で評価を認めてくださいというご提案でしょうか。

館長：今回、このような評価をしたのは博物館でございまして、こういった課題があるので今後はこういった対応をしていこう、というところまで私どものほうで考えました。それに対する評価や了承をいただくということではなく、今後はこうした方がいいだろうというようなご意見をいただければ、と思ひまして、この場にこのような評価を出させていただいたものでございます。

会長：前回の協議会のときに館長から、次回は運営方針についての点検・評価について報告をさせていただきます、というお話がございまして、そのときには、基本的には6月開催を考えておられたと思います。そういう発言もございましたけれども、任期が終わって今回の新しいメンバーのもとで、再任もたくさんいらっしゃいますけれども、今回、このような時期になって運営方針に基づく点検・評価の報告をせざるを得ない状況になってしまったということです。委員がお

っしゃるように、少なくとも前委員の任期内には間に合わせる形が本当は望ましかったと思います。協議会の開催時期についての年間スケジュールを、きちんと立てていくことがやはり大事だと思いますので、そちらも是非よろしくお願いします。もう一つ、基本的には今回の報告は自己点検評価だと思いますし、それを元に協議会委員の先生方からご意見をいただく、というのが今回の趣旨だと私は理解しております。委員がおっしゃったように、九州国立博物館の独立行政法人の中では、そういった役員会、自己点検評価の各専門部会等、いろいろあるかと思いますが、熊本博物館にはこの協議会だけです。評価機関については今後の課題ではないかと思います。できれば資料は事前に委員の先生方にお届けいただくと、もっと建設的な意見がいただけるのではないかなと思います。これも検討課題かと思います。

館 長：会長がおっしゃったことは真摯に受け止めさせていただきたいと思います。事前に資料をお配りしてお目通ししていただけるようにすべきだったと思います。準備がちょっと整いませんでしたものですから、委員の先生方には本当にご迷惑をおかけする形になってしまいました。今後、それらの点につきましては十分注意をしてこの協議会に臨ませていただきたいと思います。

会 長：委員の皆様、よろしいでしょうか。

委 員：報告書の様式について、博物館の自己点検はいわゆる行政評価の様式にはなじまないのではないのでしょうか。何か参考にしたものがあるのですか。

館 長：はい。この基本的な様式は、熊本市の行政施策の事業報告の様式や、それから教育委員会の中で事務事業の点検・評価を行います。その様式を今回は参考に使わせていただきました。私の中でも、博物館の評価がこの様式でいいのかと模索しているつもりであります。実は、この会議でこの様式でいいのか、ご意見があればいただきたいかったという思いもあります。前に会長と話をさせていただいたときに、まずは今回の形で臨ませていただいて、そして、今後もっといい様式があるのではないかと、委員の先生方にもわかりやすく意見も出しやすいような形があるんじゃないかなと、そうい

うのを模索して、検討していきたいというお話を差し上げたところでございます。ですから、この様式で行くのだということではなくて、今回はこういう形でさせていただいたわけです。こうした方がいいよ、というご意見もいただきながら改善していきたいと思えます。博物館運営についての評価様式というのはどのようなものか、その様式を作っていかなければならないと思っております。

会長：よろしいでしょうか。また、委員の先生からもご指導いただければと思います。

委員：すみません。内容についての質問をよろしいでしょうか。地域密着型の博物館ということでいろいろな事業を展開されていて素晴らしいと思えますが、例えば海外の方に対する多言語化については、今、どのような取組をされていますか。インバウンドという観点もあるとは思いますが。実際に今日、新幹線に乗りましたらラグビーの応援に行く外国の方がいっぱい乗っていらしてですね。熊本でも沢山の方が降りられたのですよ。そして、これからは外国から労働者の方が沢山入ってこられると思うので、例えば熊本に定着した人が、熊本とはどんな所か、ということで博物館に来たときにですね、日本語だけだったらなかなか理解がしづらいつつ、そういったこともあるかも知れないと思うんですが、そのあたりはどのようにお考えですか。

館長：この博物館では、リニューアルに合わせて多言語化されたスマホのアプリをお使いいただきまして、日本語のほかに英語、それから中国語、韓国語、ということで、それぞれ作品解説を読んでいただく、あるいは音声にして読み上げるというシステムを導入しているところでございます。そのほかには、チラシ、リーフレット関係も4カ国語で準備し、また資料31ページにございますが、熊本城及び周辺施設との連携ということで、多言語対応の共通ガイドブックも周辺の各館で、博物館の中でも配布して、外国人来館者の方に提供しているという状況でございます。収蔵品解説にはそのようなアプリを、あるいはリーフレット、ガイドブックなどを使って外国の方には対応をしているというところでございます。

委員：もちろんスマホの解説は非常にいいとは思いますが、先ほど、ちょっと展示室の方を拝見いたしまして、自然史標本に英名だけでも一行入れるかどうかについてはいかがでしょうか。年配の方にはとにかくパッと見て母国語が一行あると便利かなという気もするのですが、そのことは将来的にはどうお考えでしょうか。

事務局：自然史分野に関しては学名というのが併記されていて、学名を見れば、一般の方にはちょっと難しいかも知れないのですが、海外の方、全国、全世界の共通の言語ということで、とりあえず今のところはそれで。でも実際のところ、せめて英名表記を、といった声も無いわけではありませんので、今後、考えていかなければならないのかなと思っておりますが、まだ検討の段階にも至っていないような状況です。

委員：わかりました。

会長：よろしいでしょうか。大変恐縮なのですが、時間的な問題もありまして、議事2について、事務局から半分しかご説明をいただいてなくて、まだ後半がありますので、よろしければ最後まで説明していただいて、それから前に戻ってご意見をいただいても構いませんでしょうか。

館長：それでは、引き続き、極めて簡潔にご説明させていただきます。
〔大項目「Ⅱ 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理、火災・自然災害への対策」及び、「Ⅲ 市民参画・協働と、他の博物館等との連携強化」の点検・評価についての説明〕

会長：ありがとうございます。今、ご説明をいただきました。大変申し訳なく思いますが、2時間という協議会の時間は、企画展を見ていただく時間も含めていただいているのですが、できれば委員の先生方のご意見をいただくということを、まずやりたいと思っておりますので。その他、「2019年度の学校教育支援事業の体系一覧」についての説明もございますので、できれば大変申し訳ないのですけども午後3時50分ないしは55分くらいまでには目途を付けさせていただければ、と思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは、ご説明の内容につきまして、ご質問等ござい

ましたらお願いいたします。

- 委員：リニューアル開館後の、日本人以外のお客様の数はどのくらいか、統計といますか、どうでしょうか。
- 館長：統計はとりにくいのですが、中国の方、韓国の方などが多くいらっしゃっています。今、ちょうどラグビーもあっておりますのでフランスの方も多くお見えになっておられます。昨年から比べますと、やはり外国人の方は、極めて多いというわけではございませんが、だんだん増えてきたという現状でございます。
- 委員：私が別の用事で博物館に来て観覧している最中に、外国の人が結構来られており、非常に興味津々で見ている様子だったので、是非、主なものは説明で外国の方にもわかるようにしていただきたいですね。一個一個の展示については難しい問題もあるでしょうが、全体的なことや部屋のコンセプトみたいなものは英語にしていれば、よりよいのではないのでしょうか。イヤホンで聞くものもありますが、やはり室内に入ったときに共通の文字があるというのは安心します。是非、検討をお願いしたいと思います。
- 館長：委員のおっしゃるとおり、そういう対応というのは必要になると思います。話はちょっとずれるかも知れませんが、今までのアプリを使って非常に使いにくいというご意見もございましたので、少し改良しまして、外国からお見えになられた来館者の方にも利用していただきやすいような工夫は実際にやっており、先ほどのご要望はこれからの課題として進めさせていただきたいと思います。
- 委員：今の質疑応答に関連してです。そのような、お金をかけた先進的な取組というのも大変よいのですが、この前、ある博物館に行きましたら、解説は日本語しかないのですが、その部屋の解説が英語で書かれている紙をパウチしたものが綴じて置かれているんですよ。外国の方が、それをめくりながら解説を読めるようになっているので、大変なお金をかけてやらなくても、ちょっとした工夫でも随分満足していただけるのではないかと思うのです。そういった対応もありえるのじゃないかということで一言申し上げました。

会 長：関連して。一つは、アプリのインターフェースの使い勝手が悪いな
というのがあります。特に高齢者に対する対応というのは課題では
ないかと思います。また、委員がおっしゃったように、海外に行く
とわかりやすい多言語化されたパネルがあって、簡単に全部がわか
るようなものが置いてあって、そういったものを工夫していただくと、
よりインバウンドの方々へのサービスにもつながっていくのかな
と思いました。

事務局：補足を一点。すみません。各展示室の展示パネルの中でも、大項目
に当たるパネルには英語解説を付けております。全ての説明ではあ
りませんがそれぞれ4カ国語、中国語と韓国語でもタイトルを付け
ているところです。ただですね、まさに先ほど委員にご指摘いただ
いたとおりなのですが、それでもやっぱり解説が見にくいという方も
おられますので、実際にこのアプリの中で収録している音声とか、
そういったデータとか、番号で参照できるようになっていますの
で、プリントアウトした解説文をパウチした状態で外国の方に貸し
出せるような形のもの、これは手作りなのですが、エントラ
ンスでお貸しできるようにしているところです。

会 長：よろしいでしょうか。それでは委員、お願いします。

委 員：ボランティアのことを書かれていましたね。これは、これからとい
うことだと思うのですが、専門的な知識をもたれた方を活用
することによって、館としての活動を高めていくということだと思
うのですが、一つ心配なのは、自分の関心のあることには非常に熱
心ですが、そもそもの館の目的ですとか、学びに来られた方のニー
ズにどれほど寄り添っていくかということに関しては、かなり研修
活動が必要なんじゃないかと思うわけです。それで、自分の満足感
と来館者ニーズへの対応といった「相反すること」をボランティア
さんの研修の中でやっていただく。かつ、将来の展示にも役立つよ
うなボランティア活動をグループとしてもやっていただければ大変
よろしいわけで、そういった先進事例も全国にはありますしね。特
に、平塚博物館の事例等は非常に参考になるのではないかと思いま
す。今回の自己点検は、先ほど様式の話がありましたけれども、私
の目から見るとほとんど事業報告のような気がしています。内容的
には、行っている事業そのものは、本当にすばらしいと思います。

ボランティアさんのこともありますけれども。そもそも点検するためには評価基準というものがなくてはならなくて、その基準がどこに、どう置かれているかがちょっと見えにくいということが一つあったのかなと思います。意見でした。

委員：熊本博物館は自衛消防団を組織していますか。

館長：館内の組織としてですね。

委員：組織しているのであれば、実績の中に、そのことを書いておかれた方がよいと思います。自衛消防団を作っている、組織としてやっているのだと。例えば、成果と課題の中に書かれている文章表現に「消防計画の見直しを行った」とありますが、消防署の立会いのもとで消防訓練を行えば必ず講評が出ますから、その講評をこの文言に生かせばよいと思います。それから、めったにあることではないですが、爆破予告の電話。実際、数年前に他県の博物館でそうした事件がありました。博物館における危機管理は年々重要性を増していることから、さまざまな事態を想定した管理マニュアルを作成し、同時に訓練も実施している旨を明記しておいた方がよいと思います。

会長：よろしいでしょうか。

委員：博物館スクールシャトルバス事業に興味津々なのですが、これはどういったものなのですか。こちらに館所有のスクールバスがあるのですか。

会長：では、事務局に答弁をお願いします。

館長：今年度事業として新規に始めたものなのですが、熊本市も合併して74万人になりまして、例えば、北側には植木町、南側には城南町、その間に富合町がございます。そのような、いわゆる、どちらかと言えば博物館からは遠隔の区域の小学生は博物館に訪れる機会が非常に少ないといえますか、特に5年間は休館していましたので近隣市内の小学生ですら博物館に接する機会が少ないわけですが、特に博物館から遠隔となる合併町から、理科の学習や社会科の

学習が教科として始まる小学校3年生、あるいは4年生の子どもさんたちを、博物館が貸切バスを準備いたしまして、博物館に来ていただいてプラネタリウムを見て、あるいは館内学習をして、そして館内見学をするという、大体2時間半ぐらいのコースを館で設けて取り組んでいる事業です。事務局から補足があれば。

事務局：熊本市内に92の小学校があるのですがけれども、その内の12校を対象に実施しております。

委員：全学年ですか。

事務局：3年生、4年生の内のどちらか、または、小さい規模の学校については、バス1台で来館できるのであれば3・4年生合同もオーケー、というふうにしています。

委員：関連してよろしいですか。このスクールシャトルバス事業というのは、非常に小学校にとっても魅力のある事業ですので是非とも拡大をお願いしたいと思っておりますが、実はこれまで、熊本市内のほとんどの小学校で、5年生の金峰山少年自然の家での宿泊教室に合わせて、午前中に博物館で学習した後に金峰山に行く計画があったのですが、ご存知とは思いますが構造上の問題等で自然の家が使えなくなって現在は全て市外の施設を利用しています。そういった関係で、旅費、それから時間の面で、なかなか博物館にお邪魔する機会が、本年度以降おそらく極端に減っていくと思われれます。そんな中で、是非とも博物館で学習するためにも、例えば半額負担でもいいので貸切バスの負担とか、県でも水俣の方の見学旅行に事業として補助を出していただいているんですけれども、3・4年生だけではなく、できれば5年生まで入れた形で事業を拡大していただけると、それならば行こうとか、どうにか時間をやりくりしてでも行こう、という学校さんも増えてくるかと思っております。よろしく申し上げます。

委員：博物館のボランティアの事業についてですけれども、実は30年前にもこの博物館で実施しております、25年間続いたという経緯がございます。市民の方からの募集で、50名募集枠のところ150名ほどの募集がありまして、本当に生涯学習という点では、

実際に展示解説をされるボランティアの方、それから来館者の方、両方ともにためになる活動だったと思っています。ただ、実際に私が当時担当したのですけれども、考古学の学芸員をしながらボランティア活動のお世話をするというのは、本当に両立が難しいものだったので、ボランティアコーディネーターのような専門の担当の方を是非置いていただけて進めていただくと非常によろしいのではないかと思いますので、今後のたたき台としてこの意見を活用していただければと思います。

会 長：よろしいでしょうか。

事務局：先ほどご意見いただきましたが、実は中学校でも、下益城城南中学校が集団宿泊の際に、豊野を早く出て博物館に来てくださるということです。そのことを是非よろしくお願ひしたいのですが、広めていただけたらと。その日は、館内学習はできないのですが、プラネタリウムも210名が交替しながら博物館の中も見てくださいることになっています。よろしくお願ひします。

委 員：私は、ナイストライ事業は素晴らしいアイデアだと思います。中学生の足が博物館から遠のいている中、ナイストライで来る、それをまた広める、それは絶対いいと思います。

事務局：インターンシップも高校から受け入れているところです。時間が合えば調整してお受けすることにしています。

会 長：時間があまりないのですけれども、まだご発言いただけてない方に。はい、お願ひします。

委 員：情報収集や他施設との連携事業になるのかな、と思うのですけれども、情報収集に関して、他の博物館活動等の収集については書いてあるのですけれども、来年度の秋にですね、九州ブロックのPTAの大会が熊本で行われます。その際に、6千人の方が熊本県内にいらっしゃいます。そのとき、主に新しくできた施設、熊本城ホールですとか、市民会館とか県立劇場とか、いろんな場所で講演会とかをするのですが、九州の他県からいらっしゃる方とかは、始まる時間より少し前に行って、せっかくなのでそれぞれの施設について知

る機会があるならば。例えば、お城だったりとか博物館とか美術館に行かれる方は、かなりの数いらっしゃるので、他の場所との連携はもちろん必要だと思うのですが、前もって沢山の人がいらっしゃる情報収集と、こういったことを各施設でメインとしてやっていくかという連携が必要になるのかな、というふうに私は感じました。

会 長：ありがとうございました。

館 長：実は、博物館等だけの連携ではなくて、熊本にお越しいただくという方々への対応については熊本国際観光コンベンション協会等とも連携して取り組んでいます。情報共有を図りながら、ご指摘のとおり、いろんな方々においでいただけるような努力をしていきたいと考えております。

会 長：よろしいでしょうか。

委 員：議事運営について申します。始まってから2時間です。もう少し効率的にやってもらいたいですね。他の先生がおっしゃいましたが、今回の報告資料は事業報告を書いてあるふうですよ。それと説明が非常に冗長的で、資料は持っているわけですから、要点をポンポンと言っていたきたい。時は金なりですからね、そういうふうにやってもらわないといつまで経っても全部の先生が発言できないと思います。私も二三、発言したいことがありましたが、議事運営について、もう少し要を得た発言、質疑ができるようお願いしたいと思います。

館 長：わかりました。

会 長：議事運営については、私の責任です。また、次の課題にしたいと思います。時間が来ていますので、時間を区切って委員の方からご意見をいただきました。今後の対応まで含めて、こういった形で取り上げたというのは今まで無かったので、そういった意味では前進をしていると思っております。よろしいでしょうか。それでは、「その他」ということで、「令和元年度事業実施状況の報告」をお願いいたします。

館 長：時間をオーバーしまして大変申し訳ございません。33 ページから簡単に説明させていただきます。

〔協議会資料をもとに、令和元年度事業実施状況についての報告〕

会 長：ありがとうございました。議事進行で、大変ご迷惑をおかけしました。ちょうど委員の委嘱時期で、事務局のほうも今回の議事運営についてのご指導をいただけない期間でございましたので、本当にご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。それでは、事務局のほうにお渡ししたいと思います。ありがとうございました。

事務局：会長、議事進行ありがとうございました。

館 長：本日は長時間にわたりまして大変ありがとうございました。今回、このような形で点検・評価を行うのは初めてのことで、不慣れとなり、時間ばかりをとらせてしまいまして、先生方には大変申し訳なく、ご意見もまだ言い足りない部分もおありかと思えます。今後は本日のご意見、あるいはご要望等を踏まえまして、しっかりと取り組んで参りますので、今後とも、どうか熊本博物館へのご支援とご協力を賜りますようによろしくお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。

○閉会